

講演会 & ライブ な日々 ④③

古川 秀明

『般若心経とオープンダイログ 2』

私が般若心経を学ぶきっかけは、小学校3年生か4年生くらいにまでさかのぼります。

父方の祖父が亡くなりました。

脳溢血で3日ほど寝込んだ後、息を引き取りました。

父は長男だったので、葬儀の列では先頭に立ち、私は祖父の遺影を持って歩きました。

子ども心にたくさんの方が来ていたのを覚えています。

葬儀は粛々と進行しましたが、私は久しぶりに会う従兄弟たちと、大人たちに叱られないように静かに遊んでいました。

やがてお焼香が始まりました。

順番にお焼香を済ませ、最後に棺桶の中に花を入れます。

その時、私は初めて祖父の遺体を見ました。

ついこないだまで一緒に話をしていた祖父が、今は棺桶の中にいます。

祖父の顔は青白く、鼻や耳の穴にはガーゼが詰め込まれています。

私はそれを見て言葉を失いました。

やがて祖父を乗せた霊きゅう車を先頭に、何台もの車が連なって火葬場に向かいます。

戦後、祖父が一代で築き上げた仕事場の前で霊きゅう車が停まりました。

そして、大きくクラクションを鳴らしました。

近所の人々が外に出て、祖父の霊きゅう車に頭を下げ、手を合わせているのが見えました。

ああ、これが最後のお別れなんだなあ…と思いました。

火葬場には何となく冷たい空気が漂っていました。

それから数時間後、みんなで骨を拾いました。

祖父の身体はもうそこにはなく、骨だけがありました。

係の人が骨の説明をしていました。

のど仏のことも教えてくれました。

私は祖父との思い出を思い出しながら静かに手を合わせました…。

と、ここまでは普通の物語です。

ところがここから私の地獄の日々が始まりました。

(次号に続きます)

シンガーソングライター
ふるかわひであき